

ホソバオゼヌマスゲ		<i>Carex nemurensis</i> Franch.	絶滅危惧I類
(環境省:準絶滅危惧)		カヤツリグサ科	
選定理由	生育地が限定される上に、もともとの個体数が少なく、継続的な減少が予測されるため。		写真(清水英彦) 標本 
形態の特徴	叢生し、基部の鞘は淡褐色から黄褐色。葉の幅は2-3mm。苞は刺状で目立たない。花序軸は細くやや屈曲、小穂はまばらにつき、上部ほど間隔が狭くなり、最下の間隔は通常2cm程度。雌鱗片は淡褐色～褐色、鋭頭、果胞より明瞭に短い。果胞の脈は背面で顕著、嘴は短く縁に歯牙があり、口部は凹形。柱頭は2岐。		
生態的特徴	泥炭湿地や湿原に生育する多年草。		
分布状況	北海道・本州(中部以北)に分布し、岐阜県では県北に分布する。		
減少要因	開発による湿地の消失、植生遷移による湿地の樹林化。		
保全対策	開発行為からの湿地の保全、および植生遷移の抑制。		
特記事項			
参考文献	勝山輝男. 2005. 「ネイチャーガイド 日本のスゲ」. 文一総合出版, 東京. 星野卓二・正木智美・西本真理子. 2011. 「日本カヤツリグサ科植物図譜」. 平凡社, 東京.		

文責:清水英彦